



さらなる低侵襲手術をめざして 完全内視鏡下心臓手術

通常の心臓手術は胸の真ん中を20-25cm程切って、その下にある胸骨を縦割りにして行います。低侵襲心臓手術では、胸骨の切開を小さくしたり、肋骨を広げたりして心臓手術をおこないます。切開が小さいので、出血が少なくなり、感染のリスクが低くなります。完全内視鏡下心臓手術では、内視鏡を使って肋骨の隙間から手術をします。通常の低侵襲手術よりも傷がさらに小さく、痛みも少ないので、早期リハビリが行え、早期退院、早期社会復帰が可能となります。傷が小さいので、美容的にも満足度が高い手術です。



主な疾患

■ 弁膜症

三尖弁閉鎖不全症
僧帽弁閉鎖不全症
狭窄症

■ 心房中隔欠損症

内視鏡手術のメリット

- 術後疼痛の軽減
- 傷が小さく目立たないという美容上のメリット
- 出血量が少ない
- 侵襲が少ないため、術後回復が早い(早期退院)
- 早期の社会復帰が可能
(胸骨に負担がかかる作業も早期より可能)
- 胸骨を切らないので、縦隔炎や胸骨離解が回避できる(感染率の低減)
- 再手術症例におけるリスク軽減
(癒着剥離軽減、バイパス損傷回避など)

内視鏡手術のデメリット

内視鏡下の手術のため手術難度が高く、手術時間が延長します。そのため心機能が低下した患者さんには不向きです。
開胸手術となるため、呼吸機能が低下した患者さんには不向きです。

大分岡病院 コールセンター
TEL 097-503-5033

責任者：大分岡病院 副院長・心臓血管外科部長 迫 秀則

社会医療法人敬和会 大分岡病院 心血管センター